

(平成29年 9月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	9月の水産物の総入荷量は、さんま、さけをはじめ、多くの魚種で漁獲量が減少したため、前年同月と比べ、鮮魚、冷凍魚、加工水産物ともに入荷量が下回り、全体で6%下回った。 総取扱金額は、前年同月と比べ、冷凍魚は上回ったものの、鮮魚、加工水産物は下回り、全体としては前年並みとなった。 10月には、さんま漁が終盤となり、徐々に脂が乗ってきているものの小型物が中心で、不漁だった前年を下回る可能性がある。秋さけ漁は、漁期当初は前年を下回る漁獲量であったが、これから本格的な漁となるため、今後の水揚げに期待したい。
(区分別の動向) 鮮 魚	9月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ5%下回り、単価は2%上回った。 品目別には、はまち（天然）、きはだ、あまだいの入荷量は上回り、単価は下回った。さけ、さんま、たらの入荷量は下回り、単価は上回った。 10月は「戻りがつお」の時期で、脂が乗っているので、お造りなどで美味しくいただくことができる。また、さば、いわし、かますなども脂が乗って美味しい時期となる。
冷 凍 魚	9月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ3%下回り、単価は13%上回った。 品目別には、冷さけは前年に比べ単価が上回ったことから、国内需要が低下し、入荷量は下回った。冷えびは前年に比べ単価が上回ったものの、前月より値下がりしたことから、荷動きが良く、入荷量は上回った。 10月は、アラスカ産紅さけやチリ産銀さけの新物の出荷が増えてくるが、海外における需要が多いため、入荷量は前年並みもしくは、前年よりやや少なくなる見込みである。

加 工 水 産 物	9月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ7%下回り、単価は4%上回った。 品目別には、塩銀さけ、塩さんま、ちりめんは入荷量が下回り、単価は上回った。身欠にしんは入荷量が上回り、単価は下回った。 10月は、えてかれいや水かれい、ささかれいなどの干かれい類がおいしい時期となる。また、旬となり脂の乗ってくるかますは、開干して適度に余分な水分を抜くことで、より一層旨みが増してくる。これらの旬の魚で、秋の味覚を楽しんでいただきたい。
------------------	---

※鮮魚には、貝類、淡水魚を含む。

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	山口,和歌山で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ6%上回り,単価は18%下回った。
ま い わ し	愛知,北海道で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ9%下回り,単価は17%上回った。
さ ば	長崎,和歌山で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ16%上回ったが,脂乗りが良好な中型物が多く,単価は17%上回った。
す る め い か	青森,新潟で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月並であったが,小型物が入荷が増えたため,単価は5%下回った。
太 物	入荷量は前年同月並であったが,良品物が入荷が減少したことから単価は13%下回った。
よ こ わ	北海道,長崎で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ37%下回り,単価は30%上回った。
さ わ ら	鳥取,福井で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ9%下回り,単価は2%上回った。

(冷凍魚主要品目) 冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ９％上回ったが，国内外で大型物の供給が少なく，単価は前年並みであった。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ６９％下回り，単価は２１％上回った。
(加工水産物主要品目) 塩 さ ば	入荷量は前年同月と比べ７％下回ったが，輸入物の中小型物を原料とする製品主体の入荷であったことから，単価は前年並みであった。
塩 さ ん ま	入荷量は前年同月と比べ３０％下回り，単価は４％上回った。